

2016年度 JTA組手ランキング・ベスト7

第27回全日本フルコンタクト・テコンドー選手権大会 組手選抜者及び推薦出場者発表 (確定)

2016年10月11日

日本テコンドー協会

宗師範 河 明生

2016年度、JTA組手ランキング・ベスト7 (社会人確定)、
第27回全日本フルコンタクト・テコンドー選手権大会・組手無差別級の選抜出場及び推薦出場選手を発表する。

A級選手候補 (優勝者が2016年度フルコンタクト・テコンドー王者) はアンダーラインをひいている。

本大会男子組手A級は、11年かけて第16回全日本FT大会以前のレベルに戻り、蹴美の激戦が期待される。

ヘッドギア無しの組手試合は死亡事故・重度後遺障害等の危険性の伴う階級であるためB級への変更出場を認める。

A級選手候補は、自己の意思かつ自己責任の覚悟をもっていずれかを決定すること。

ただし、本人がA級を希望しても、A級希望者が一定数を越えた場合、ランキング下位選手はB級とする。

言記

選手名	段位	所属	年齢	身長/体重	出身地	得意技	選抜基準	
<u>チャンピオン</u> 鈴木雅博	初段	湘南平塚TC	29	167/66	神奈川二宮	後回し蹴り	全日本大会優勝	
1, 組手ベスト7 (JTA男子組手ランカー。第27回全日本FT大会男子無差別級組手出場権獲得者)								
第1位	倉田剛志	二段	千葉柏TD	37	186/89	北海道函館	踵落とし蹴り	全日本大会2位 湘南大会無差別級優勝・横浜大会無差別級優勝
第2位	該当者無し							
第3位	該当者無し							
第4位	八幡直明	初段	東京中野TC				神奈川大会重量級優勝	

第5位 中澤 友 1級 大阪弁天町TC 25 関西大会中量級優勝、中部大会優勝、

第6位 秀崎康隆 初段 福岡筑紫野TC 32 173/73 福岡秋月 飛び後回し蹴り 長崎大会優勝

第7位 坂本洸巳 初段 横浜青葉TC 関東大会中重量級優勝

2、アンダー7 その1 (予選会優勝に基づく全日本大会出場権獲得者)

第8位 渡辺智也 初段 岡山大学体育会 24 163/63 愛媛西条 関西大会軽量級優勝

第9位 霜倉 亮 初段 神戸六甲TC 関西大会中量級優勝、中国大会優勝

第10位 石川敏輝 初段 川崎TC 26 171/74 川崎市 後横蹴り 東京大会中量級優勝

第11位 三富湧太 初段 湘南平塚TC 19 165/58 神奈川平塚 後横蹴り 湘南大会軽量級優勝

第12位 鈴木祐司 初段 湘南平塚TC 31 173/62 神奈川平塚 踵落とし蹴り 神奈川大会軽中量級優勝

第13位 高田憲利 二段 岡山鏡野TC 37 170/68 岡山鏡野 後ろ回し蹴り 四国大会無差別級優勝

第14位 尾崎秀磨 初段 神奈川大学横浜体育会 21 173/72 滋賀日野 後回し蹴り 大学大会重量級優勝

第15位 前橋拳史郎 初段 岡山大学体育会 22 182/83 兵庫姫路 後横蹴り 兵庫大阪大会優勝

第16位 久本 遼 初段 岡山商科大学 21 176/60 岡山備前 大学大会軽量級優勝

第17位 森保公喜 初段 横浜市立大学体育会 21 関東大会軽量級優勝

第18位 伊澤 卓 初段 神奈川大学横浜体育会 21 161/54 横浜大会優勝

第19位	長澤宏哉	初段	横浜市立大学体育会	21				大学大会中量級優勝
第20位	橋本博司	初段	長崎佐世保TC					九州大会優勝

3、アンダー7 その2 (前年度ベスト4入賞等による全日本大会推薦出場確定者)

第21位	吉場亮介	初段	横浜白楽TC	24				神奈川大会重量級2位、東京大会重量級2位、 <u>横浜大会無差別級2位</u>
第22位	西岡 健	二段	渋谷TC	36	173/75	神奈川相模原	後ろ横蹴り	全日本大会4位
第23位	小山恭弘	初段	横浜鶴見TC	30	175/73	東京大田	踵落とし蹴り	全日本大会3位

4、アンダー7 その3 (関西大会・大学大会参加学生、JTA倶楽部活性化政策等に基づく全日本大会推薦出場確定者)

注1

第24位	兼子 淳	初段	岡山大学体育会	21				大学大会軽量級3位
第25位	小林勇介	1級	神奈川大学横浜体育会	21				大学大会軽量級4位
第26位	新宅崇広	初段	岡山大学体育会	21				
第27位	小林風樹	1級	神奈川大学横浜体育会	21				

以上

注1

JTAは、結果がでなくとも、持続的な努力を続ける門人・会員が報われる団体を志向している。
第25位以下の選手は、関西大会および大学大会以外の大会、宗師範総見にも積極的に参加しており
上記に該当するので推薦した。

備考

1, ランキング選定基準 前年度全日本F T大会および予選会における順位を前提としながら、

- ①本年度予選会のレベル（激戦度）
- ②ランカーは優勝時における試合内容
- ③本年度予選会における直接対決の勝敗
- ④本年度予選会における試合内容を基準とした。

2, 推薦出場選手選考および注意

- ①J T Aは、J T Aの運営上、持続的にボランティアで貢献した選手が全日本F T大会に出場できるよう配慮する団体である。実力が十分でなくても、持続的功労に報いるため推薦した。
- ②J T Aは、持続的に努力した選手が全日本F T大会に出場できるよう配慮する団体である。実力が十分でなくても、数年間にわたり持続的に予選会に挑戦する精神は評価に値するので推薦した。
- ③推薦選手は、客観的に「フルコンタクト・テコンドー力」が足りないことを冷静に自覚しなければならない。自己責任かつ死ぬかも知れないことを認識し、残存期間、フルコンタクト・テコンドーの修行を最優先し、防御能力を高めなければならない。

3, 選考外選手

予選会入賞者であっても

- ①引退・退会している選手、
- ②大学卒業後、一度も予選会に参加していない選手、
- ③練習量が足りないとみなされた選手、
- ④蹴美力の足りない選手

は除外している。

4, その他

①「A級蹴士（全日本F T大会の組手および型への個人戦2種目参加を認められる選手）」は絶対評価である。予選会の結果による相対評価ではない。

②本年度も、死亡事故・後遺障害等の予防のため

A級（ノーヘッドギア。防御能力が優れた選手）と

B級（ヘッドギア着用。組手環境等により防御能力の未熟な選手）

の2階級制とする（詳細は全日本F T大会要項参照）。

③関東圏の選抜男子選手は、総見に参加しなければならない。

参加しない場合は、公的職業特例等以外は出場権を取り消す場合がある。

④推薦出場されたが、これを辞退した場合、いかなる理由があろうとも来年度以降、推薦出場の対象者とはならない。
潔く現役を引退することを薦める。

⑤未成年者は、実力があってもB級とした。

5, 第27回全日本フルコンタクトテコンドー選手権大会の男子組手選抜選手選考大会名

- ①2015年11月 第26回全日本フルコンタクトテコンドー選手権大会
- ②2015年12月 第9回四国テコンドー選手権大会
- ③2015年12月 第27回神奈川県テコンドー選手権大会
- ④2016年 3月 第7回九州テコンドー選手権大会 兼 第5回佐賀県テコンドー選手権大会
- ⑤2016年 3月 第18回関東テコンドー選手権大会
- ⑥2016年 3月 第9回中国テコンドー選手権大会 兼 第13回岡山県テコンドー選手権大会
- ⑦2016年 5月 第4回兵庫大阪テコンドー選手権大会
- ⑧2016年 5月 第8回中部テコンドー選手権大会 兼 第13回愛知県テコンドー選手権大会
- ⑨2016年 6月 第5回長崎県テコンドー選手権大会
- ⑩2016年 6月 第19回東京都テコンドー選手権大会
- ⑪2016年 7月 第2回湘南テコンドー選手権大会
- ⑫2016年 8月 第14回関西テコンドー選手権大会 兼 第7回JTA団体対抗戦
- ⑬2016年 9月 第5回横浜市テコンドー選手権大会
- ⑬2016年10月 第28回全日本学生テコンドー選手権大会